

(問合せ先) 国土交通省北陸地方整備局 富山工事事務所 調査第二課  
 〒930-8537 富山市石金3丁目2番37号  
 TEL 076-424-9786(直通) FAX 076-424-1772 eメール mocty02@mbd.sphere.ne.jp

(今回のご報告内容)

## 第1回地域懇談会で用いた資料を要約してご説明します

去る11月30日に地域の代表者(総代さん)にお集まりいただき、地域懇談会を開催致しました。今回の瓦版では、地域懇談会で用いた資料を要約してご報告させていただきます。詳しい資料をご覧になりたい方は、総代さんにお問い合わせ下さい。

なお、今回の瓦版の内容は、区長さんまたは班長さんから皆さんに詳しくご説明していただくことになっております。この瓦版に対するご意見やご質問は、班長さんを通じて集約させていただきます。それに対するお答えは次回の瓦版(第3号)および住民説明会(平成14年1月頃)において示させていただきます。

### その1 PI活動とは?

PI(びーあい)活動の目的として、主に以下の内容があげられます。

- 計画の社会的意義を説明し、十分に情報を提供します。
- 幅広く、十分に意見交換します。
- 住民の意向を適切に計画へ反映させます。

表. 大沢野道路整備計画における主なPI活動

PI活動の内容	概要
①PI委員会	PI活動への意見、助言を行います。
②地域懇談会	情報提供と意見交換を行います。総代を対象とした懇談会と地元の経済団体等を対象とした懇談会の2種類を設けます。
③広報・意見募集	地域住民への情報提供(瓦版の発行・住民説明会)と意見募集(意向調査)を行います。

今後、右のような手順で、PI活動を行う予定として  
います。

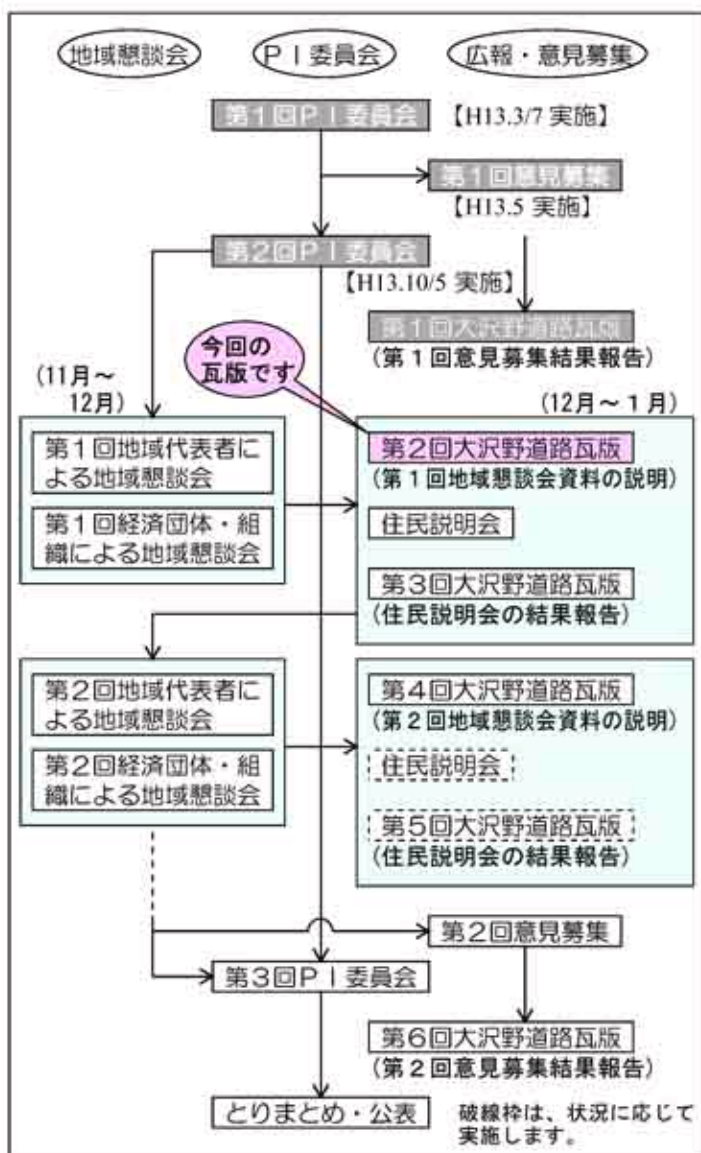
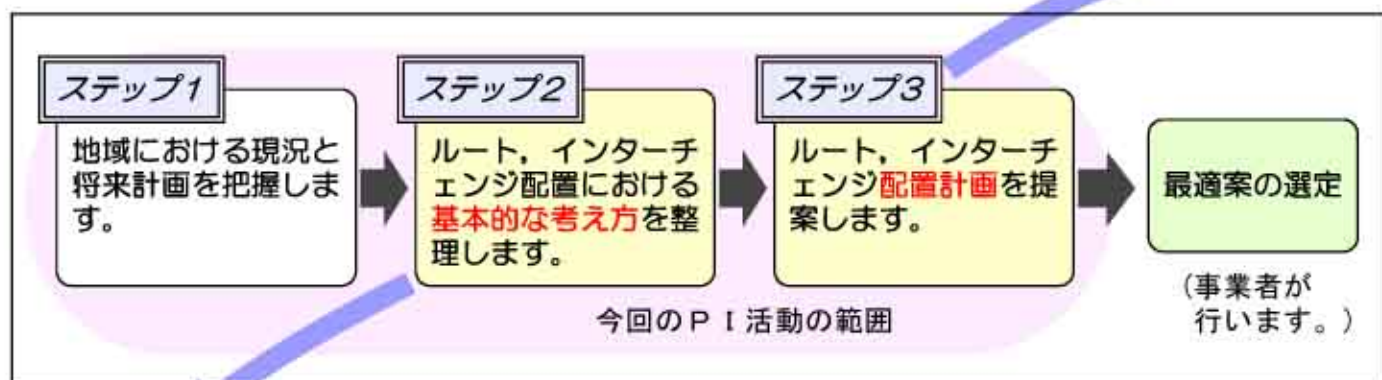


図. PI活動の手順

## その2 ルート及びインターチェンジの配置について

ルート及びインターチェンジ配置計画は以下の手順で行います。



### ステップ2 ルート、インターチェンジ配置における基本的な考え方を整理します。

大沢野道路が担う役割から、ルート及びインターチェンジ配置計画を提案する際に配慮すべき事項を以下のように整理しました。

#### 広域的には

- ①. 富山ー高山間をできるだけ短い距離で結ぶルートとします。
- ②. 八尾町をはじめ神通川左岸地域からの利用性に配慮したルートとします。

③. 将来のまちづくりの方向に配慮したルートとします。

④. 中大久保企業団地、高内地区工業集積地への利用性に配慮したルートとします。

⑤. 市街地への利用性に配慮したルートとします。

⑥. 既存道路と一体となった道路網を形成し、市街地をはじめとした都市活動に配慮したルートとします。

#### 大沢野町 にとって



#### 住民生活 にとって

⑦. 住宅密集地の通過を極力避けたルートとします。

⑧. 公共公益施設を極力避けたルートとします。

⑨. 圃場の斜め切りなど耕作地への影響が極力少なくなるルートとします。

## ステップ3 ルート、インターチェンジ配置計画を提案します。

### (1) ルート帯の検討

大沢野道路は敷地幅が広い(50~60m)ため、市街地の中にルートを配置すると数多くの家屋移転が生じ、まちづくりに大きな影響を及ぼします。

このため、ルート配置は市街地を避けた位置から神通川までの間の概ね1kmの範囲内とします。

ここでルートは、ステップ2で整理した基本的な考え方にもとづき、以下の2つのルート帯が考えられます。

#### ■第1案 神通川ルート帯

～既成市街地から極力遠ざけて、  
大沢野道路を整備する～

主要地方道富山笹津線より、  
神通川側とするルート帯

#### ■第2案 市街地ルート帯

～既成市街地に極力近づけて、  
大沢野道路を整備する～

主要地方道富山笹津線より、  
市街地側とするルート帯

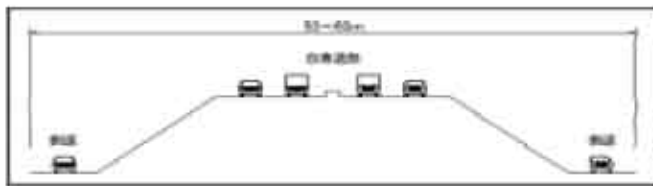


図. 大沢野道路の敷地幅のイメージ

今後の検討において、それぞれのルート帯を組み合わせたルートも考えられます。

凡 例		
用途地域界	---	
土地利用	商業系	斜線
	工業系	格子
	住居系	点線
	福祉・レクリエーション系	波線

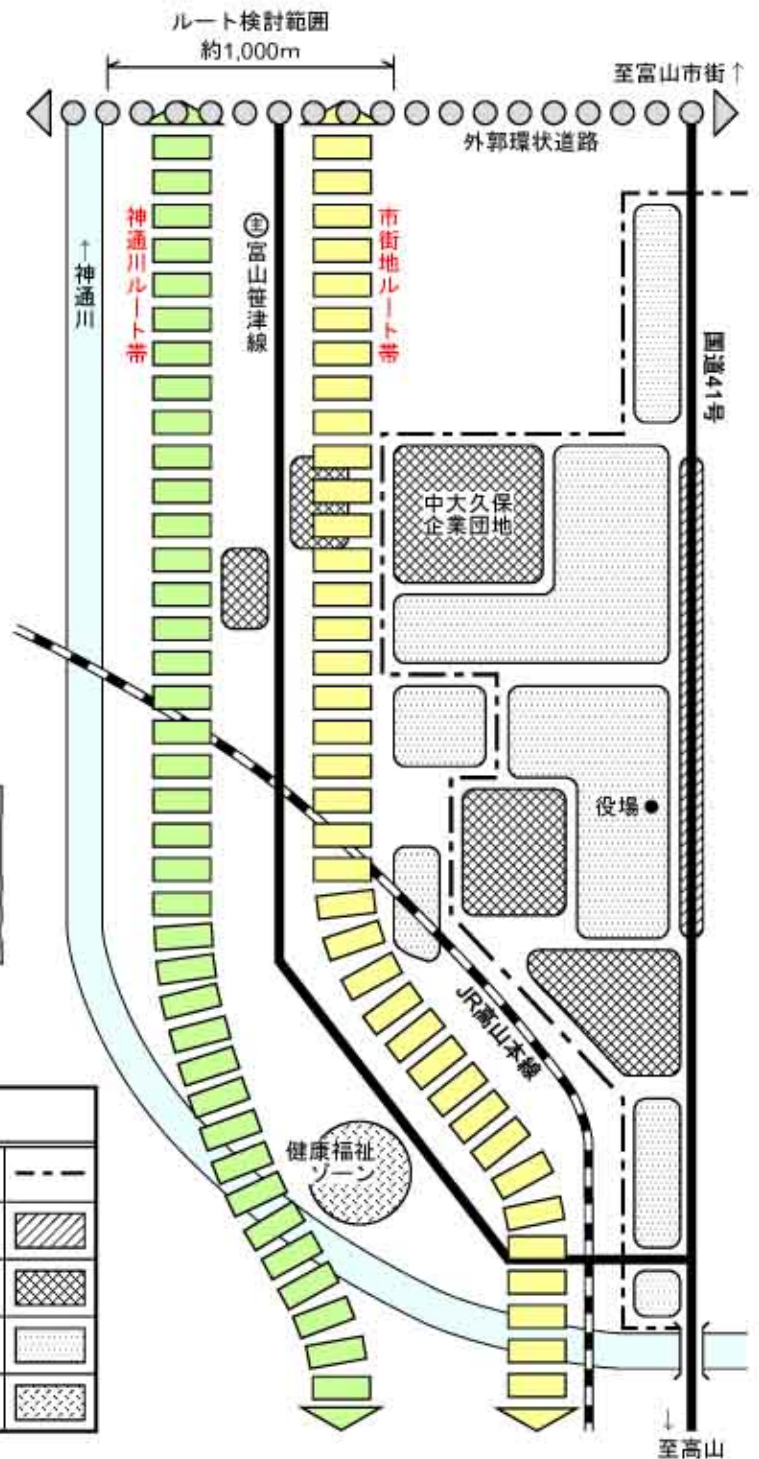


図. 2つのルート帯の考え方

## (2) インターチェンジ配置案（組み合わせ案）の検討

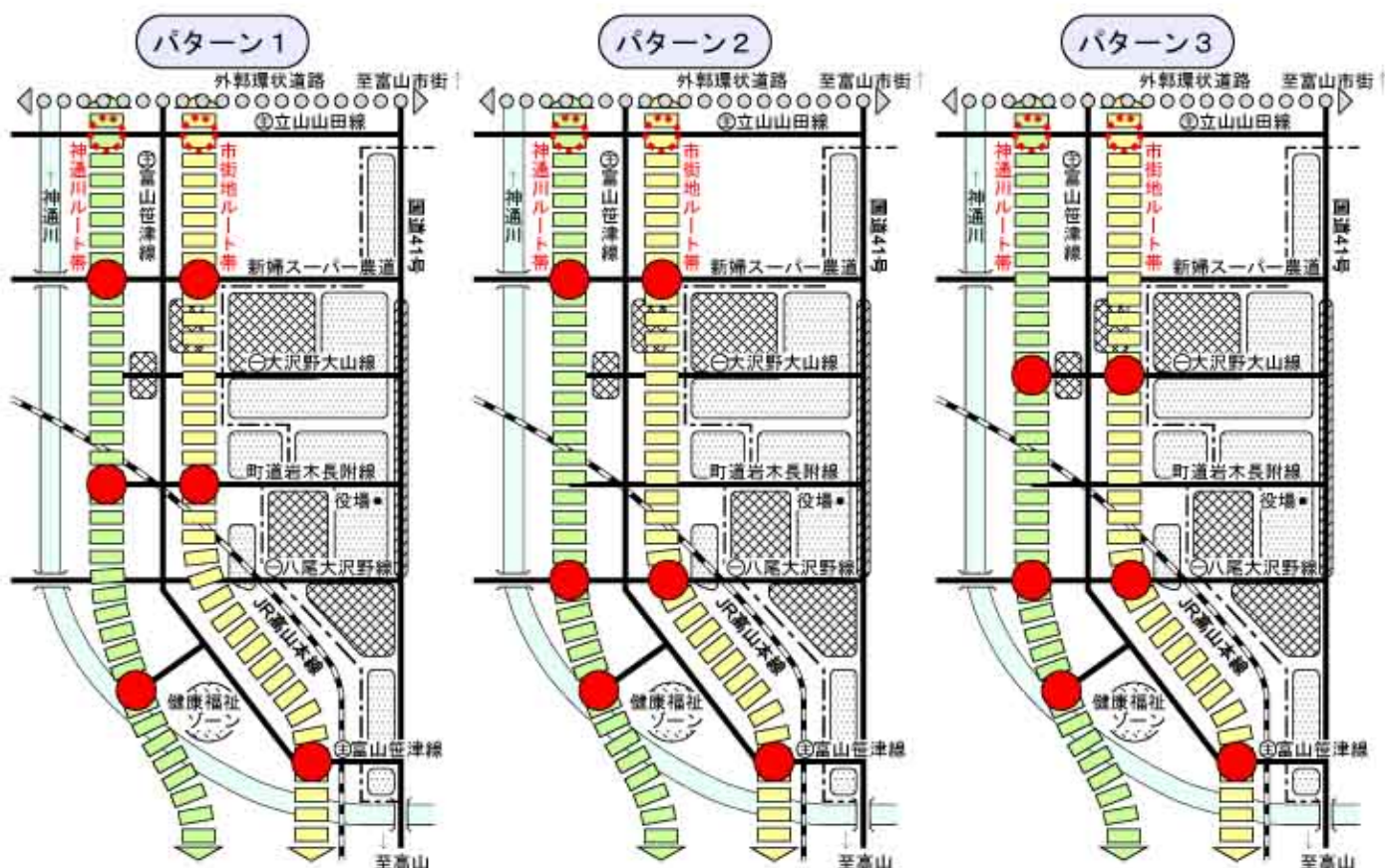
大沢野町にとってインターチェンジの設置個所が多ければ、大沢野道路の利用性が高くなります。

しかしながら、インターチェンジの間隔は、1 km程度確保する必要があることから、全てのアクセス道路にインターチェンジを設置することはできません。

そこで、インターチェンジ間隔が確保できる条件のなかで、できるだけインターチェンジの設置個所が多くなるように組み合わせ案（パターン1～3）を設定しました。

表. アクセス拠点とアクセス道路

アクセス拠点	アクセス道路	将来の道路幅員
①中心市街地 (買い物、通院、通学など)	●町道岩木長附線 ●一般県道八尾大沢野線	20.0m 20.0m
②中大久保企業団地及び その周辺の企業団地	●新婦スーパー農道 ●一般県道大沢野大山線	9.0～12.0m 25.0m
③高内地区大規模工業集積地	●町道岩木長附線 ●一般県道八尾大沢野線	20.0m 20.0m
④八尾中核工業団地	●新婦スーパー農道	9.0～12.0m
⑤総合健康福祉ゾーン	●主要地方道富山笹津線 (都)笹津春日線 ●町道健康福祉センター線	8.0m 20.75m
⑥大沢野運動公園	●一般県道大沢野大山線	25.0m



(注)これらの3つのパターンは代表的なものであり、ルート帯とインターチェンジの位置の組み合わせによって、他のパターンも考えられます。

※・立山山田線は、外郭環状道路が具体化した時点で、改めて検討することとしています。

本パンフレットに対するご意見・ご質問をお待ちしております。

(このパンフレットは再生紙を使用しています。)